



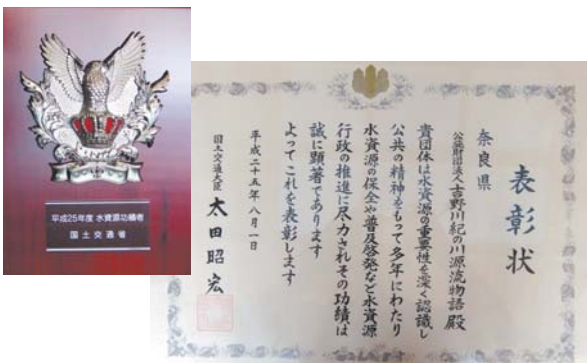
## 「吉野川紀の川源流物語」が国土交通大臣表彰 ～平成25年度「水資源功績者表彰」～

公益財団法人吉野川紀の川源流物語は、国土交通省から、水資源行政の推進に関し、特に顕著な功績があったとして、「平成25年度水資源功績者」に選ばれた。

同財団がある川上村は、近畿の屋根といわれ、日本で最も雨が多い地域奈良県大台ヶ原に近く、吉野川の最上流に位置する。「水源地の森」を象徴とする川上村の森に蓄えられた雨水は吉野川となり、流域に豊かな恵みを与えながら、和歌山県へと流れ、紀の川と名前を変える。

### ■「水資源功績者表彰」

国土交通省が昭和54年から実施しているもので、平成25年度は個人1名及び団体10組が受賞した。同財団の受賞は、「紀の川（吉野川）源流に位置する川上村内のビジターセンター『森と水の源流館』と手つかずの原生林（740ha）を拠点とし、交流型の事業展開により、流域平野部の住民向けに、源流域の役割と河川環境に関わる啓発活動をしている。設立から10年間での利用・交流人数は約164,000人に上っている」功績が評価されたものである。



授与された表彰状と楯

### ■「吉野川紀の川源流物語」の活動

同財団は、「『樹と水と人の共生』」を目指し、吉野川・紀の川の源流部を拠点に、その自然的価値、文化的価値を大切に、流域をはじめ都市部の人々にこれを伝え、共に考え、行動するため、

体験学習・交流活動を通じて、広く啓発や環境教育に関する事業を行うこと」を目的として、平成14年4月に設立された。（平成24年度公益財団法人へ移行）

河川や県内の水道、農業用水の届く流域平野部の住民に向けて、「水源地の森」（原生林）ツアーや、一般参加による観察会形式の環境調査を実施している。

また、水源地域の豊かな自然の大切さと、源流域に残る文化や人々の暮らしの技や知恵を『源流学』と名付けて、その体験を呼びかけている。特に子供たちに向けた森林環境教育では、奈良県・和歌山県内ほかの小学校等の受け入れや、「出張源流教室」として学校での出前授業を行っており、平成24年度には83件、4,729名が参加している。



### ■流域交流の拠点として

同財団の事務局では、「楽しい体験等を通じて、流域や都市部との連携・交流による水資源環境保全活動をより積極的に実施するため、市町村や企業などあらゆる力を集めてつなぐ、コーディネーター拠点としての役割を担いたい」と話している。

担当者からは、多くの人々の暮らしを支える水源地としての責任を持ち、下流域の人たちも巻き込んで、かけがえのない水と森を守り育てて行くとする強い意志が感じられた。（奥 桂子）